



今が旬、筍採り

校長 濱 畑 昭 成

この時期は、何と言っても筍採り。雨が竹の成長を早めるので、雨が降るのがうれしく雨上がりが待ち遠しくなる。高齢者の皆さんの目の輝きがちがう。まあ朝の早いこと、私が行った頃には、皆さん皮を剥いて帰る支度。どこに筍があるのやら？それでも一緒にヤマに入った方は、両手にあまるほど手に筍を持って、「もっていっきゃい」と私が2本しか取っていないのを見てご慈悲を！有り難いことだ。採りに来たのではなく、もらいに来た感じだ。「筍掘り」でなく「筍もらい」であった。「どうやったらそんなに見つかるのですか。」「においがするのですか。」と失礼な質問をしてしまうくらい不思議である。その方が言われる。「そんな普通の道を歩いていても見つからない藪の中を潜っていくんですよ。私は体が小さいから有利なんです」と何とも楽しそうに話される。自分は地上から20cmほど出たのを探し廻るが、名人はちがう。落ち葉の笹の葉の中から探し出す。そんなのが見えるのか。凄いことだ。さすがプロですね。しかも図太い。直径が8cm近く、どこにそんな太い筍が生えているの～。と叫びたくなる。

筍、椿、ツツ、長命草、島の貴重な資源である。長年の経験で、硫黄島を知り尽くしている高齢者の方は、この硫黄島の四季を堪能していらっしゃる。自然を味わえるなんて最高ですね。

硫黄島の良さを子ども達に伝えていきたい。私たち学校職員の使命であると考えます。これからも様々な体験を通して硫黄島を好きになってくれる子ども達を育てていきたい。週末は子ども会で筍採りだ。竹藪の中で、子ども達は悪戦苦闘することだろう。

<母の日にカーネーション>～感謝のリレー～

今年も鹿児島市の田知行義久さんから、母の日にあわせてカーネーションが届きました。39年もつけてもらっているということに、子どもたちも驚くことでした。生徒会長の智君が、「感謝の気持ちを精いっぱい伝えたいです。」と発表してくれました。それぞれのおうちで日頃の感謝の気持ちを花にそえて、渡せたことでしょう。



<新しい留学生>～瀬戸口龍空(せとぐちりゅうく)君～

5月16日に清水中から9年生(中学3年)に転入してきました。昆虫が大好きなさわやかな男の子です。運動が得意ということです。よろしくお願いします。

<日常が戻りつつあります>～学校生活の再開～

学校にも、いつもの授業が戻ってきています。部活動や少年団も頑張っています。



授業の様子 イモの苗植えしました！ 蝶をつかまえたよ！ 少年団や部活動も頑張っています

<フェリーみしま>

～ありがとうそしてよろしく～

フェリーみしまが19年間の航海を終え、新船みしまにバトンタッチしました。

硫黄島の最後の寄港では、大粒の雨が別れを惜しむ涙のように降りしきました。おつかれさまでした！



そして、新船みしまの初寄港では、さわやかな五月晴れのもと、たくさんの方々とお迎えしました。

新船みしまに乗った方々の話では、「ほとんど揺れないですね。」とのこと。船に乗って出かける日が待ち遠しくなりそうです。



「注意1秒、ケガ一生涯」

今年度は、たくさん子どもたちが港に来ることが多くなりました。港には、荷物を運ぶトラックやフォークリフトがたくさん走ります。事故にあわないように、周りをよくみて行動しましょう。